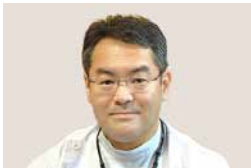


## 尿路結石と前立腺肥大症の手術件数で全国有数の実績

### 医療法人桂会 平尾病院



奈良県橿原市 医療法人桂会 平尾病院 理事長・院長

平尾 周也 先生

超高齢社会を迎え、泌尿器科疾患の高齢患者は増加し続けています。奈良県橿原市の平尾病院は年間約1,000例の泌尿器科手術を行い、尿路結石と前立腺肥大症の手術実績は県内有数です。理事長・院長の平尾周也先生に、地域での同院の役割や泌尿器科診療の特徴についてお話を伺いました。

### 泌尿器科を中心に機動力を発揮して地域医療に貢献

1997年に奈良県立医科大学の隣接地に開設された平尾病院は、99床の一般病床（急性期91床、地域包括ケア病床8床）と介護医療院22床を有し、泌尿器科を中心に内科および外科領域の医療を提供しています。2018年に理事長に就任した平尾先生は、「当院は大病院にはない機動力を生かした医療を展開しています。例えば、CTやMRIなどの検査を即日実施し、早期の診断と迅速な治療を開始して、大病院に匹敵する安全で確実な医療を提供します」と語ります。

同院の周辺数百メートル圏内には奈良県立医科大学附属病院の他に中小規模の民間病院が5つあり、それぞれが役割分担をして医療連携が進んでいます。「特に話し合いを持ったわけではありませんが、厳しい経営環境の下で各病院が強みを生かした診療を意識するようになりました。当院は泌尿器科、中でも尿路結石治療と前立腺肥大症治療に力を入れています」。5病院の中で泌尿器科手術を行うのは平尾病院だけです。奈良県立医科大学附属病院泌尿器科と密接に医療連携し、尿路結石、前立腺肥大症、尿失禁などで手術が必要な患者さんを逆紹介されるようになりました。2020年はコロナ禍で同附属病院の手術が制限される状況で、平尾病院に逆紹介される患者さんの数は大きく増えました。さらに、時間外も含めてほぼ毎日、泌尿器科の当直医を配置し、尿路結石、腎盂腎炎、尿閉、血尿などの救急を24時間受け入れていることが特徴です。県内に夜間の泌尿器科救急を行う病院は少ないため、近隣する市町村だけでなく県北部の奈良市からの救急患者を応需することもあるそうです。

### 最新の前立腺肥大症レーザー治療装置を導入

泌尿器科は常勤医5名と非常勤医5名の体制で泌尿器全般を診療しています。尿路結石治療と前立腺肥大症治療は最新の医療機器を常に導入してきており、2018年度の両疾患に対する手術件数は奈良県のみならず全国でも有数の実績を上げています。尿路結石治療は27年間で1万件以上の体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を実施。経尿道的結石破砕術（TUL）は16年間で2,000件以上、「医療機器の進歩で内視鏡の直径が硬性で1.5mm、軟性で1.6mmと極めて細くなり、より低侵襲になったことや、その場で結石を取り出して治療が終わることからTULの件数が増えており、2020年の件数はESWLが157件、TULが324件でありました」と平尾先生は説明します。

前立腺肥大症に対して、以前は経尿道的前立腺切除術（TUR-P）を実施していましたが、2015年12月から光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）を開始。TUR-Pと比べて使用する内視鏡は細く、出血量や術後の痛みが少ない治療となり、尿道カテーテルの早期抜去が可能となりました。2020年10月には最新・最上位機種に装置を更新し、専門の前立腺レーザー治療外来も開設しました。「手術速度、止血機能が向上したことで、手術時間の短縮と安全性向上が実現しました。入院期間は通常4～5日ですが高齢者が多いため、無理をして退院後に血尿などの合併症が起こらないように安全を優先して7日間ほどになります」。術後の患者さんには、泌尿器科医、看護師、理学療法士による排尿ケアチームで排尿自立指導も実施しています。2021年4月から常勤の麻酔科医が勤務開始するため、毎日の手術が可能となり、手術件数はさらに伸びていくと平尾先生は考えています。



■光選択的前立腺レーザー治療の最上位機種は、従来の2倍の手術速度と優れた止血機能を有しています。



■前立腺レーザー治療の様子。グリーンライトレーザーが組織内のヘモグロビンに吸収され、照射された組織が蒸散されます。



■連携する訪問看護ステーションや高齢者介護施設のスタッフと泌尿器科疾患の知識や管理方法を共有する講習会を開催しています。